

## 海外留学の成果報告

駒澤大学  
経済学部商学科4年

中西 竜也

留学先 **アメリカ合衆国**  
(ボストン、ノースカロライナ)

留学期間 平成29年9月10日  
～平成29年10月30日



ホームステイ先の家族と

### 支援企業

セーレン株式会社

### 担当者

人事労務部

### 担当者から一言

日本と海外では文化や働いている人たちの考え方が違います。グローバルで活躍する人材になるためには、これらの違いを受け止め、自分の意見を相手に伝えるコミュニケーション能力が重要な要素になってきます。

留学での気づきを今後の社会人人生に生かして欲しいと思います。



語学学校の友人達と

## ①留学をしようと思った動機

大学2年生から独学で英語を勉強し始め、大学3年生になったころから留学をして、海外で活躍できる社会人に成長したいと思うようになりましたが、金銭的に厳しく諦めざるを得ない状況でした。(今思えば、ワーキングホリデーとかいろんな制度があった) そんな思いを持ったまま就職活動をしているとき、奨学金をもらいながら福井の企業の海外拠点でインターンシップができるトビタテ！留学 JAPAN 地域人材コースがあることを知り、応募しました。

## ②留学の内容および成果

留学の内容としては、セーレン(株)のアメリカ工場でインターンシップをした他、語学学校に通いました。

海外の工場でインターンシップをしたことは貴重な体験となりました。デスクワークの軽い補助や工場内で実際にアメリカ人と働いたりなど、見学ではなく動くことで体験することが出来ました。その結果日本と働くことに対する意識の違いなどを学ぶことが出来ました。ほとんどの人が定時になるときれいに帰っているオフィスや、自分の休憩時間を話の途中であっても要求するなど、日本であまり見ない光景を見ることが出来ました。日本でも働き方改革と言われてはいますが、アメリカのこのような一面も取り入れるべきなのかなと考えさせられました。

語学学校で一番印象に残っていることは中国の方と韓国の方との交流です。元々悪い印象は持っていませんでしたが、国同士で起こっている問題などの影響で日本を嫌っているのではないかというイメージを持っていました。しかし、実際話しをしてみるとそんなことを気にしている人など皆無であり、国の背景など関係なく、人間同士で関わったことは非常にいい経験になりました。日本全体での中国と韓国に対する意識をもっと変えなければいけないと感じました。

留学をすることで多様な価値観を知り、海外で働ける基礎作りしようと目標を立てて出発しましたが、留学は非常に実り多いものとなり、目標通り多くの価値観を知ることが出来ました。



休日にニューヨーク観光